

東京都作業療法士会ニュース

編集：東京都作業療法士会広報部 発行：会長 田中勇次郎

子どもの参加（Participation） と、その障害



作業療法士は活動と参加を支援する専門家である。しかし、対象が子どもの場合、しかも障害の状態が加わると、「参加とは何か」について整理が難しくなる。参加は、一般には社会活動の場に参加し、そこで一定の役割を果たすことが想定される。しかし、例えば学校に行くだけでは、十分な参加とは言えない。何らかの要因によって、授業が理解できず、教室にいないことができない時には、参加しているとは言い難いだろう。場に参加するだけでなく、そこで役割を果たすことが、参加を考える時には重要になると言える。

さらに年齢を下げて、1歳の赤ちゃんにとっての参加はどう考えられるだろうか。保育所に通っている場合はあるかもしれないが、その前に、まず最も身近で、基本的社会単位であり、きわめて重要な社会的な参加の場は、家族であると考えている。1歳の赤ちゃんが家族に参加すること、家族という場に参加して果たす役割は何であろうか。

児童福祉法には「全て児童は、児童の権利に関する条約の精神にのっとり、適切に養育されること、その生活を保障されること、愛され、保護されること、その心身の健やかな成長及び発達並びにその自立が図られることその他の福祉を等しく保障される権利を有する」という記載がある。子どもが有する権利が宣言されている。例としてこの中の「愛され、保護される」に注目してみる。これは子どもの権利である一方で、親が提供すべきことでもある。親に

は「愛し、保護する」ことが求められ、子どもは「愛され、保護される」。うめだ・あけぼの学園 酒井 康年
それは、子どもの権利で

あり、その権利を行使する役割、保障される役割がある。つまり、赤ちゃんが、親から「愛され、保護される」ときに、家族という場に参加し、子どもとしての役割を全うしていると考えられる。

それが妨げられるのは、どんな時か。感覚過敏があり極めてセンシティブな場合。痲癢が強く強い泣きが収まらない場合。多くの医療的なケアが必要である場合。一般の方は、愛する行為の一つと言える「触れる」ことを躊躇してしまうのではないだろうか。子どもに愛情を持ち、その愛情を注ごうとしても、その行為を容易に実現できない状況がそこに発生する。親の「愛し、保護する」ことが妨げられ、子どもの「愛され、保護される」という役割が妨げられる状況。まさに参加が妨げられている、障害されていると言える。子どもたちが抱える状況によって、その参加が「妨げられる＝障害される」のである。「しょうがい」「障がい」などと文字表現だけを変えても、この事実は変わらない。

だからこそ、作業療法士として、「障害」を取り除くための支援を提供したい。ダウン症やASD、脳性麻痺などは治すことはできない。しかし、参加の障害へはアプローチが可能である。それは社会モデルで考えることができるから。

CONTENTS

- ◆子どもの参加（Participation）と、その障害…①
- ◆第18回東京都作業療法学会開催のご案内…②
- ◆2021年度 代議員選挙についての報告…③
- ◆急性期病院スタッフでの情報共有Vol.2…④
- ◆OTがかかわる災害対策 Vol.4 2018年の西日本豪雨災害における岡山県のJRAT…⑤
- ◆子ども委員会活動報告…⑥
- ◆「地域包括ケア対策委員会企画研修会の報告」…⑥
- ◆「認知症の人と家族の生活支援委員会 活動報告」…⑦
- ◆認知症にやさしい本の紹介 VOL.31…⑦

- ◆【研修会のご紹介】…⑧
- ◆生活行為工夫情報事業（都士会ホームページに動画掲載のお知らせ）…⑧
- ◆自動車運転と移動支援対策委員会 研修会のお知らせ…⑨
- ◆令和3年度オンライン就労支援相談会のご報告…⑨
- ◆ブロック活動のお知らせ…⑩
- ◆保険部 Letter…⑫
- ◆編集後記…⑫

第18回東京都作業療法学会開催のご案内

開催日：2022年7月10日

開催内容：テーマ Change Chance Challenge 3つのC
～作業療法のいま・これから～

- ◆方法：WEB (ZOOM)
- ◆大会長：三沢幸史 (東京都作業療法士会副会長・多摩丘陵病院)
- ◆実行委員長：栗沢広之 (大久野病院)
- ◆担当ブロック：西多摩・南多摩ブロック
- ◆参加費：日本作業療法士協会かつ東京都作業療法士会会員2000円、他県士会員及び非会員3000円
※2020年度以降の資格取得者と学生は無料 (都士会発足40周年を記念し、2020年度以降の資格取得者は、会員、非会員に限らず無料としました。)
- ◆参加登録期間：2022年5月2日～2022年6月26日 ※登録方法は追ってご案内いたします。

～演題募集～

◆演題募集期間：2022年1月14日12時～2022年3月31日23時

◆募集要項：都士会ホームページ「お知らせ」または、下記URL・QRコードよりご確認ください。

<https://bit.ly/34M1Gbt>

◆エントリーフォーム：都士会ホームページ「お知らせ」

または、下記URL・QRコードより登録へお進みください。

<https://bit.ly/34ucJ9v>



※演題は口述発表またはポスター発表となります。応募演題の採否については、実行委員会にて査読選考を行い、ご登録いただいたメールアドレス宛にお知らせいたします。作業療法学科学生の演題登録はできませんのでご了承ください。

都学会では皆さんから企画を公募します。学会テーマでもあるchange・chance・challengeに沿って、当事者やご家族の方々、各種事業者の方々、そして皆さんの日々の取り組みやご経験をぜひ発表していただきたいと考えています！詳細は追ってご案内いたします！

お問い合わせ：第18回東京都作業療法学会 事務局 occupational.therapy.tokyo@gmail.com

2021年度 代議員選挙についての報告

事務局長 中里 武史

東京都作業療法士会では、正会員の中から選挙で「代議員」を選び、その代議員が社員総会の構成員となる「代議員制度」を2017年より導入してまいりました。

(代議員制とは、正会員の中から「一般社団法人上の社員」を「代議員」として選出し、その代議員が決算の承認や役員の選任、定款変更などの重要な事項を決議する法人の総会の構成員となる制度です。)

このたび定款第10条により、4年に1度の代議員選挙を実施しましたので、結果をご報告いたします。すべての選挙区において無選挙での当選となりました。代議員は正会員の80名に1名としており、各選挙区より選出されました代議員と代議員定数は以下の通りとなります。

東京都作業療法士会 代議員 定数 33名 (五十音順)

第1区 : 区西南部・区南部 定数 : 5名

石川未来 菊池大典 齊藤洸太 春口麻衣 和仁久見子

第2区 : 区西北部 定数 : 5名

宇佐美好洋 竹山眞美 中本久之 森本美和 山下高介

第3区 : 区東部・区東北部 定数 : 5名

大瀧直人 小林法一 酒井康年 谷村厚子 馬場博文

第4区 : 区中央部・区南部 定数 : 5名

阿部幸太 阿部元彦 松本宗一郎 森田将健 山本司

第5区 : 北多摩 定数 : 7名

今村美希 紙田緑 住田多恵子 田中庸之 田中勇次郎 田原真悟 原田祐輔

第6区 : 南多摩・西多摩 定数 : 6名

栗沢広之 上田敏宏 林義巳 松岡耕史 三沢幸史 米山貴紘

急性期病院スタッフでの情報共有Vol.2

今回も話し合いの目的は急性期の領域で働くOTの課題、目標、工夫点の共有（シェア）することです。



左上→右下

大村 隼人	東京都保健医療公社荏原病院
水口 寛子	国立国際医療研究センター
中澤 史江	東京都保健医療公社豊島病院
阿瀬 寛幸	順天堂大学医学部附属順天堂医院
阿部 幸太	聖路加国際病院
森田 将健	NTT東日本関東病院
川合多紀子	東京都保健医療公社大久保病院
山本 司	東京医科歯科大学病院

COVID-19について前回の記事を受けて、会員の方より質問を頂きました。

Q. コロナ陽性患者へのリハビリを担当しているスタッフのメンタルケアについて教えてください

A. メンバーから出た配慮している点をお答えします。

- ・スタッフの意向確認：特に初期の頃は本人やご家族の意向を確認し、介入してもよいという志願体制をとった。
- ・感染対策の徹底：个人防护具（PPE）の脱着手順やN-95のフィットグの確認を行ってから介入した。
- ・情報共有：介入前に感染症科の医師やリハ医からCOVID-19の講義を受けた。メンバー内、または未介入のスタッフも含めてミーティングを行い、知ることによる不安の軽減を図った。
- ・メンバー交代制：特定の人に負担が集中したり、終わりが見えない中での緊張感の持続が難しいことなどから、介入経験のある施設では定期的なCOVID班のチーム編成の見直しを行っている。
- ・相談体制：管理職が定期的に面談を行う。院内の相談窓口（精神科医、看護師、心理士との面談など）の設置。
- ・報酬：コロナ危険手当により、介入者へは負担に応じた報酬が支払われた。

今回のテーマ：リハサマリ作成について

間接業務の中で特に負担の多いリハサマリについて話合いました。

<現状の問題点>

患者数や回転率の速さから月に作成すべきサマリの量が多い。急遽転院が決まることもある。休日リハを開始したことで担当者の不在や、時短スタッフもいることから作成が間に合わないこともある。労力のわりに診療報酬がつかない。複合疾患の方が多く、書くことが複雑になる。急性期では意識障害などで大切な作業や目標などが聞き出せないこともある。元々在宅でリハを行っていた場合、申し送りがあると急性期でも目標を継続することができるが、それが分からないと機能障害に偏ったリハ内容や申し送り内容になる。

<有益な情報とするための工夫>

・生活期からの情報活用

元々の生活状況を知る手段としては、在宅側から「別添）理学療法士、作業療法士又は言語聴覚士による訪問看護の詳細」の送りがあつた場合、入院前の参考にしていく。リハ室には届かなくても、連携室などには介護支援専門員等からの情報が届いている

場合もある。

・テンプレートの活用と記載の効率化

リハサマリの代わりに生活行為向上マネジメントの申し送りシートを利用している。疾患別テンプレートを作成し、プルダウンやチェックボックスを利用することで自由記載を減らし時間短縮を図っている。自由記載の文字数や記載時間の目安を設けている。身体機能評価はPTと分業し効率化している。地域のネットワークでの意見交換では医師の診療情報提供書にある現病歴や既往歴、看護サマリにあるような情報、転院先で可能な評価内容はリハサマリに不要と言われた。その人の人格や大切にしてきたことなど必要最低限にしている。普段からカルテの記載方法を休日リハなどの代行者にも簡潔に申し送れるように記載している。サマリにもそれを転用し、効率化を図っている

急性期OT情報交換会について
のご意見・要望はこちらから！



OTがかかわる災害対策 VOL.4

2018年の西日本豪雨災害における岡山県のJRAT (一般社団法人日本災害リハビリテーション支援協会)の現地災害対策本部での活動報告

都士会災害対策担当(保険部部长) 門脇 優

2018年7月に発生した豪雨災害により、西日本を中心に全国的広い範囲で記録的な大雨を観測。特に長時間の降雨量について多くの観測地点で観測史上1位の記録を更新。広い範囲で河川の氾濫や土砂災害が発生し、死者200名以上となった。

私は、国際医療技術財団(JIMTEF)主催の災害医療コーディネーター研修受講者向けの被災地への派遣要請を受け、8月中旬に1週間ほど現地対策本部でのコーディネーター業務を行った。避難所への派遣は、西日本に勤務地があるリハ職中心に行われ、東日本に勤務地があるリハ職は現地対策本部でのコーディネーター業務を担った。

現地対策本部でのコーディネーター業務は、1. 避難所支援要員への申し送り、2. 避難所から上がってくる報告と現地対応の伝達、3. 日々変化する状況への情報収集、4. 本部要員や避難所支援要員の人員調整、5. 掲示活動記録(クロノロジー)の作成と情報分析、6. 他支援団体との会議参加などを行った。その際、コーディネーター業務で大切なことは、災害のフェーズを認識しながらJRATが現在どのような方向性で支援を行っているかを認識することである。

私が参加をした時期は、仮設住宅への移行期であり、避難所での生活から新たな生活拠点への移動の時期であ

った。そのため、活動としては、必要な支援を継続することと、JRATが撤退し地域のリハビリテーション事業に引き継ぐことを視野に関わる必要があった。避難所では、当初あまり認識のなかったJRATの認知が向上し、リハ職としての支援も求められることも多くみられたが、その後地域のリハビリテーションとして継続できる形を考慮しながら対応していくことが重要であった。すぐに対応可能な事柄であっても、一個人として即時的に対応するのではなく誰でも行える対応を行うことや組織としてどのような方向性があるのかを認識しながら対応することが大切である。

災害時の支援については、OTとして出来ることや個人として出来ることなど様々な形がある。OTとしての支援を考える際には、日本作業療法士協会の災害対策室が行っている災害支援ボランティア登録が1つ挙げられる。平時から災害対策や発災時の対応についてなど研修会も行っているため、ご検討をいただければと思います。

参考資料

- 1) 災害リハビリテーション標準テキスト

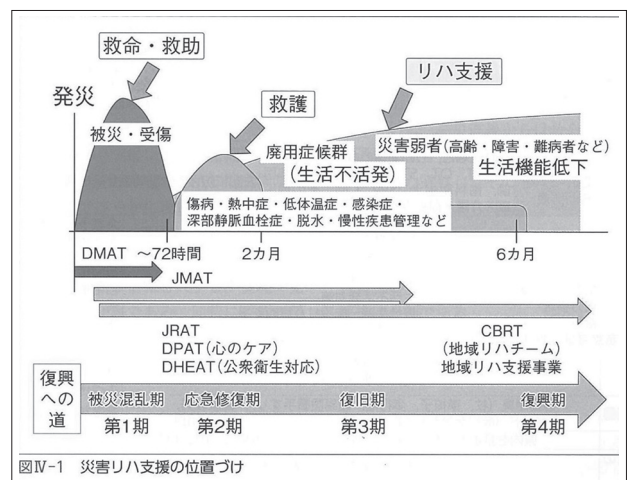
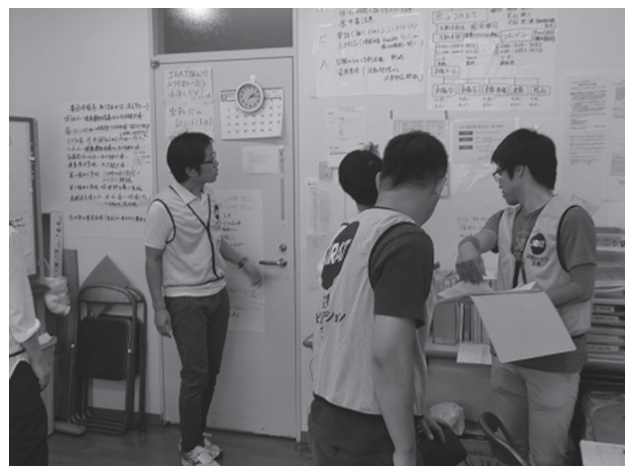


図1-1 災害リハ支援の位置づけ



子ども委員会活動報告

長田 真歩

2022年2月11日に子ども委員会主催「子ども×福祉用具 一歩手前のアイデア共有」と題してオンラインでの研修会を行いました。今回の研修では、「生活の場で使えるちょっとしたアイデア共有」として、日本作業療法学会生活環境支援推進室が運営する「福祉用具相談支援システム」の生活行為工夫情報に登録された子ども委員会委員の事例を用いて現場で使用できるアイデアを説明しディスカッションしました。

脳性麻痺児・肢体不自由児から知的障害児・発達障害児と幅広い疾患において、子ども委員会委員が臨床において考え、提供したアイデアを、「姿勢・学習・余暇」の3カテゴリーを講義形式で紹介し、その後アイデアの内容を子ども委員会メンバーでディスカッションしました。ディスカッションでは、紹介されたアイデアだけではなく、他のセラピストが実践しているアイデアや、使用している物品・素材について聞くことができ、実際の現場でも活かしやすい内容になったのではないかと思います。

また、最近では「使いやすい」「学習にぴったり」のようなキャッチコピーで売り出されている商品があります。障害を持っているお子さんにとって作業療法士が企業の宣伝に惑わされることなく、本人に適した物を探すことの大切さを考えさせる研修であったと私自身は感じております。

今後も子ども委員会として様々な企画を行っていくので、その時はぜひご参加ください。



『地域包括ケア対策委員会企画研修会の報告』

地域包括ケア対策委員会

東京都リハビリテーション病院 齋藤 正洋

当委員会では、毎年研修会を開催しております。今年度は2022年2月16日に「訪問作業療法の今と未来」をZOOMで開催し、沢山の方々にご参加いただきました。

研修会講師は、(株)東京リハビリテーションサービス取締役 竹中 佐江子氏に「訪問作業療法に関する概要や制度」を説明していただきました。2020年度は介護報酬の改定があり、介護情報のデータを蓄積するシステム(Long-term care Information system For Evidence LIFE)が開始されております。集められたデータは蓄積され、PDCAサイクルにより、質の高いサービスを実施する体制が構築されていくそうです。これからの時代に適応できる作業療法士となるために、知識やマネジメント力が必要であると感じました。

山王リハビリ・クリニック上原 亮介氏からは、「訪問リハビリテーションの実際 ～多様な事例を通して～」と題し、訪問リハビリテーションにおいて作業療法士がいかに、効果的な介入を行えているか、実践例を含めてお話ししていただきました。訪問リハビリテーションで、いかに「活動・参加」に利用者の目線を向けていくか、そのための傾聴力やコミュニケーションを実感する研修でした。

最後に地域包括ケアシステム委員会の今井氏も含め、三者でのディスカッションを行いました。これからの地域で求められる作業療法士が、介護保険・医療保険のことだけでなく、地域における様々な活動に精通することが望まれていると締めくくられました。

次年度も地域包括ケア対策委員会では、様々なアイデアの元、研修会を行って参ります。是非、ご参加のほど宜しくお願い致します。

「認知症の人と家族の生活支援委員会 活動報告」

認知症の人と家族の生活支援委員会
在宅総合ケアセンター成城リハケア病院 大木 結加里

今回は東京都へ向けて行った活動を紹介させていただきます。当委員会は、2021年末に東京都看護協会主催である看護フェスタ（2021.12.1～2021.12.31）に参加させていただきました。当委員会の企画としては、【認知症関連の書籍紹介】を行いました。この企画は、本土会のニュース記事で連載されている舟田彰氏（川崎市教育委員会・川崎市立宮前図書館課長補佐）の認知症関連の書籍紹介をもとに企画されました。今回は、これまで舟田彰氏にご紹介して下さった書籍の中から「認知症になった後の歩み方や介護者の寄り添い方を描いている本」を抜粋させていただきナレーション付きの動画で紹介しました。最終的な動画視聴回数も多く、とても好評だったようです。

また、本土会広報誌OTO4号にて興味深いアンケート結果を拝見しました。OTとして働いている方が一番初めに「作業療法士」を知った経緯の中で「本」と回答している人が最も多かったのです。今回看護フェスタで紹介させていただいた中には「祖母と孫の関わり」「孫の視点で描かれた絵本」など、子供達でも読める書籍もありました。小学生にも認知症や作業療法という言葉に触れ興味を持ってもらう機会が増え、その中から未来の作業療法士になって下さる方が1人でも増えると嬉しいなと私自身思いました。

今後も、当委員会として同職種だけではなく、多職種や一般の方へ向けた認知症関連の情報提供、専門職としての情報発信を行っていきたいと思います。来年度も引き続き当委員会をよろしくお願いいたします。

認知症にやさしい本の紹介 VOL.31

川崎市立教育委員会 川崎市立宮前図書館 課長補佐 舟田 彰

だいじょうぶだよ、おばあちゃん

福島利行/ 塚本やすし/絵 講談社/出版社

「介護」について、絵本ではどう描かれ、どう伝えるのか。これを知りたく、今回も絵本を選んだ。対象は小学校低学年以降の児童向けである。主人公は小学校低学年の男の子。その子は祖父と田舎で暮らす祖母が転倒し、心配している姉と僕でお見舞いに行く。各ページには「やってみよう」という介護で配慮するワンポイントコーナーがある。「介護とは」という説明では、『介護をされる側とする側、両者がしあわせを感じられることである』と説明されている。私自身色々な意味で納得した。さて、子どもたちと祖父母が再開。祖母が車いすで生活している場面で、昼食の用意の場面。ワンポイントで特に印象深かったのは「おかずを小さく切ることでのどに詰まらせない」という工夫が必要とのこと。在宅で祖父母が生活している中で、リハビリを無理ない範囲で行うことや、声掛けの大切さ、周囲はやさしく接し、ゆっくり話すことが必要だと各ページに記載がある。また、手をマッサージすることもケアに有効的であると説明。さらに、困っている人の気持ちになる、寄り添う等の必要性も。祖父母と一緒に入浴や就寝するときの配慮点にも触れている。最後に「(祖父母は)家族に囲まれていることほど、幸せなことはない」として締めくくられる。絵本でもケアについてここまで書かれるのかという印象を持ち、我事の視点で読んでいた。ちなみに作者2名はホームヘルパー2級取得者。

【研修会のご紹介】

都士会福祉用具部で研究への協力をしており、下記の内容で研修会を開催しますのでご興味のある方はご検討ください。

・テーマ：重度運動機能障害者のためのジェスチャインタフェース普及に向けての研修会

市販の距離カメラを利用して、非接触・非拘束かつ比較的安価で、種々の障害による重度運動機能障害者に適応可能なスイッチインタフェースの普及と継続した研究開発を行っています。現在は普及に向けた活動を本格化させているところです。活動の詳細はHPをご覧ください（<http://gesture-interface.jp/>）。

・日時、内容、定員：

1日目：2022年5月21日（土）13：00～15：00 内容：オンライン講義 定員：300名以内
2日目：2022年5月28日（土）13：00～15：00 内容：実技講習 定員：20名程度

・方法、場所：

1日目：オンライン開催（1日目のみの参加も可、2日目は1日目に参加した方が対象です。）
2日目：現地開催 場所：国立精神・神経医療研究センター 研究所セミナー室（3号館1F）
※1 新型コロナウイルス感染症の流行の影響で開催方法変更の可能性あり
※2 2日目の内容については施設単位での個別オンライン研修も可能です。
ご希望の場合は、日時等含めて対応致しますのでお問い合わせください。
（終業後18時～19時×2回などでの実施も可能です）

・対象：東京都で働く作業療法士

・参加費：無料

・プログラム：ジェスチャインタフェースについて概要説明、症例紹介、体験

・講師：依田育士（産業技術総合研究所 人間情報インタラクション研究部門）
木下崇史（国立障害者リハビリテーションセンター研究所 障害工学研究部）

・申し込み：下記QRコードまたはURLから申し込みください。

詳細、問い合わせ先等については、都士会ホームページをご確認ください。



https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfGzF41HKH6kRybvplYzVtaZN0agO93fhhpfdiclFKjb7WfqQ/viewform?usp=sf_link

生活行為工夫情報事業 （都士会ホームページに動画掲載のお知らせ）

都士会ニュースや研修会等で生活行為工夫情報事業についての紹介を行ってきましたが、改めて「生活行為工夫情報事業の概要」と「生活行為工夫情報事業の取り組み」の2つの紹介動画を作製しました。

是非、会員皆さまに当事業の内容を理解していただき、活用してください。



自動車運転と移動支援対策委員会 研修会のお知らせ

自動車運転と移動支援対策委員会 リハビリ訪問看護リハビリステーション町田 山下 桃花

“パーソナルモビリティ”という言葉をご存知ですか？パーソナルモビリティとは、街中での近距離移動を想定した1～2人乗りの小型電動コンセプトカーなどを指す次世代自動車のことです。「2人乗りの超小型モビリティ」「電動機付自転車」「電動車いす（シニアカーやWHILL等）」「移動支援ロボット（セグウェイ等）」の4つの分類があります。

昨今、新たな交通手段として脚光を浴びており、移動に伴う環境負荷の低減、交通弱者の移動支援など、さまざまな効果が期待されています。各地で実証実験がされる中、電動車いすを日常的に使用することで地域高齢者の外出や社会参加の頻度が増加する等のメリットが明らかになってきています。

当委員会では、パーソナルモビリティ導入に向けて、下記の研修会を開催致します。シンポジウムでは電動車いすユーザーでありYouTube“とりすまチャンネル”で発信をされている鳥越勝氏、電動車いすなどのモビリティを取り扱う代理店、電動車いす導入にあたっての研究を行う作業療法士の亀井将太氏をお招きし、それぞれの視点での移動支援のあり方についてお話しをしていただきます。皆様のご参加お待ちしております。

【オンライン研修会】

テーマ：『地域での移動手段を考える研修会～電動車いす等を地域の移動手段として活用する～』

日時：2022年3月25日（金）19：00～20：00

内容：地域での電動車椅子等の導入や継続支援の実際、課題や今後の展望など車いすユーザー、業者、作業療法士の様々な立場から講演し、移動支援のあり方について考えます。

令和3年度オンライン就労支援相談会のご報告

就労支援委員会では、今年度オンライン就労支援相談会を定期的で開催してきました。年度を通して、全4回開催し、延べ11名の方に参加いただくことができました。

全体のまとめは以下です。

＜参加者の所属機関＞

障害福祉分野（就労移行支援事業所、就労継続支援B型事業所、市区町村就労支援センター）

医療保険（回復期病院、急性期病院、外来リハビリテーション）

介護保険（訪問リハビリテーション事業所）

＜質問内容＞

- ・企業実習の確保
- ・医療機関から就労支援への連携
- ・病識・障害受容に課題のある方への対応方法について
- ・履歴書や職務経歴書の書き方
- ・ハローワークの支援内容、連携について
- ・回復期リハビリテーション病院での就労支援について など

＜参考になったこと・得られた知識（※アンケートより）＞

- ・病院との連携で気をつけるポイント
- ・ハローワークの実態や連携方法
- ・学歴や職歴を振り返るなど求職前の準備について
- ・軽い高次脳機能障害の方でも、一般就労になると苦労されるということ
- ・医療・福祉に関わらず、積極的に情報収集・提供すること
- ・回復期リハでの取り組み、就労支援機関での取り組み、神経心理学的検査の大切さ など

参加後アンケートより、「アットホームな雰囲気の中、病院から地域まで様々な方から話を伺えて良かった」、「就労支援について、実際の話を開けて参考になった」等の感想もいただきました。

ご参加いただいた皆さん、ありがとうございました。次年度も皆さんの就労支援に関するニーズに対応できるよう取り組んでいきますので、よろしくお祈りします。

ブロック活動のお知らせ

西多摩・南多摩ブロック

今泉 幸子

当ブロックでは、2022年7月10日に開催されます『第18回東京都作業療法士学会』の企画を進めております。今回は、「Change・Chance・Challenge 3つのC ～作業療法のいま・これから～」というテーマを掲げております。

今回もオンライン開催を予定しておりますが、OT都士会発足40周年の節目に合わせた対談企画や、演題募集に加えて日々の活動や取り組みを当事者や家族、支援者と一緒に気軽に発表できる枠を設けて公募いたします。どちらも奮ってご応募ください。

当ブロックでは、一緒に活動に参加してみたいという方を募集しております。気軽にご連絡ください。ご意見・ご要望・ご質問はこちらまで ⇒ swtamaot@gmail.com

北多摩ブロック

原田 祐輔

COVI-19の影響により私たちの生活様式は大きく変化しましたが、ブロック活動の方法も大きく変化しています。今年度、北多摩ブロックの会議・座談会・勉強会はすべてオンラインで実施しました。実際にブロック委員や参加者の方々と対面でお話できない寂しさはありますが、遠方の方や子育て中の方など、これまでご参加がかなわなかった方々と触れ合う機会も増えており、オンラインの良さも大いに感じた一年でした。皆さまが参加しやすい新しい形を今後も模索していきたいと思っております。前回もお知らせしましたが、次年度の座談会や勉強会において取り上げてもらいたいテーマを募集しています。お気軽にアクセスしていただけますと有難く存じます。引き続きよろしくお願い申し上げます。

【次年度の座談会・勉強会にて希望するテーマ】

<https://forms.office.com/r/X5YXngFf9e>



区西部・西南部ブロック

齊藤 洸太

こんにちは、西部西南部ブロック長の齊藤です。今年度もコロナ禍の大変な中、さまざまな研修や交流会等の活動に参加していただきありがとうございました。皆様の日々の業務に少しはつながったでしょうか？

次年度も引き続き皆様のお役に立てる活動を考えていきたいと思っております。知識を深める研修も大切ですが、コロナ禍で分断されたと言われている地域内での交流に対して重点的に推進していきたいと考えています、アイデアくださいね！

Seibu.seinanbu.otgmail.com

区東部・東北部ブロック**田口 翔太**

区東部東北部ブロックでは、今年度の5月から7月にかけて、新人職員・学生向けのオンラインセミナーを全9回開催致しました。コロナウイルスの感染拡大の影響で、院内研修や病院実習を充分に行うことが難しい状況ですが、参加された方からは、臨床業務に繋がる貴重な学びになったという声を多くいただくことが出来ました。来年度も同様なセミナーを予定しており、今後もコロナウイルスと共存していくことを踏まえ、感染対策に関する内容や、影響を受けることの多かった家屋評価、集団プログラム実施時のポイントなど、ニーズに合わせて展開していけるように準備を進めております。

また私自身も今年度よりブロック委員として活動をさせていただきましたが、様々な分野で活躍されている方々との交流は、大きな刺激となりました。私は精神分野で勤務しておりますが、近頃は精神疾患がメディアに取り上げられる機会も増加し、より馴染みのある分野になるのではないかと考えております。臨床の経験は浅いですが、精神科OTの立場から、精神分野におけるOTの役割や魅力を紹介していけるよう努めて参りたいです。

区中央・南部島しょブロック**山本 司**

区中央ブロックでは2021年12月9日（木）に『臨床で活かす作業療法の理論～事例を通して作業療法を学ぶ～』というテーマで東京保健医療専門職大学の猪股英輔先生にご講演をいただきました。当ブロックでは初のオンラインセミナーでしたが、大きな混乱もなく開催することができました。参加者からは「事例を通して理論を学ぶことが出来た。」「事例が提示されていたので、非常にわかりやすかった。」「使いやすい評価表から使えば良いとわかり、敷居の高かった理論を身近に感じる事ができそう。」と感想が聞かれました。

今年度も多くの方に区中央・南部ブロックの研修会に参加していただき、誠にありがとうございました。来年度も皆さまの臨床に役に立つように様々な研修会を計画しておりますので、皆様奮ってご参加いただければ幸いです。

区西北部ブロック**神田 幸洋**



直近のブロック活動として、昨年12月10日に「第4回のコロナ禍におけるOT情報交換会」を開催しました。今回は精神科領域にスポットを当て、陽和病院のオンライン施設見学会、精神科OTの1日のスケジュールや取り組みについて講義をして頂きました。来年度も情報交換会を継続して行けたらと考えています。

また、区西北部ブロックではブロック委員を募集しています。我こそはと思う方がいらっしゃいましたら tokyo.ot.seihoku.block@gmail.comまでご連絡お待ちしております。

保険部 Letter 介護保険サービスにおける、 デイケアとデイサービスの違いについて

横山 雄一

回復期リハビリテーション（リハ）病院から退院後の生活において、退院後のリハ継続や入浴サービスの利用目的など、様々な目的でデイサービスやデイケア等の介護保険サービスを導入するケースが多い。そこで、今回はそれぞれの目的や機能訓練の違いについて以下にまとめた。

	デイサービス（通所介護）	デイケア（通所リハ）
対象者	要介護者	要支援・要介護者
目的	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会交流の場（楽しみ、生きがいの場） ● 心身の健康維持向上 ● 清潔保持（入浴サービスなど） ● 家族負担の軽減 など 	<ul style="list-style-type: none"> ● 身体機能の維持回復 ● 生活機能の維持向上 ● コミュニケーション能力の向上 ● その他（デイサービスと同様） など
機能訓練	機能訓練指導員（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、柔道整復師、あん摩マッサージ指圧師、看護師、准看護師）が在籍している  「機能訓練」を提供	医師の常駐が義務付けられており、リハ専門職（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）が必ず在籍している。  「リハビリテーション」を提供

※リハ内容や設備、リハ機器などは施設によって異なるため、各施設の特徴やサービスを確認する必要がある。

編集後記

ニュースの中で、災害に対する連載が保険部松岡さんのご協力もあり、継続できていることが嬉しく思います。また、急性期病院での話合いも2回目を掲載することができました。今後は急性期病院だけでなく、回復期や地域で働く方々のディスカッションも掲載したいと思っています。ぜひ地域リハに熱い想いをお持ちの方はお声がけください。ニュースを眺めてみても様々な委員会、部からの報告がユニークであり、改めて作業療法の多様さを感じました。 広報部部長 水口寛子

※ニュースに掲載されている写真は、ご本人の同意を得たうえで掲載しています。

◆東京都作業療法士会 事務局

〒160-0022 東京都新宿区新宿5-4-1 新宿Qフラットビル501号室

TEL：03-6380-4681 FAX：03-6380-4684

◆東京都作業療法士会ホームページ <http://tokyo-ot.com/>

◆東京都作業療法士会ホームページ窓口 postmaster@tokyo-ot.com

※お詫びとお願い：現在事務局での電話対応が困難な状況にあります。

ご質問・ご連絡は、FAX・メールにてお願いいたします。